

民のために人生を捧げた島根龜夫氏がご逝去されました。厳しい表情の中にもユーモアと愛情溢れる会話ができなくなつたことを思うと、寂しさが募ります。

11月11日には、離島甲子園を主催し、離島の子ども達を応援し続けてくれた村田兆治氏が亡くなられました。8月に佐渡で開催された離島甲子園の外野席の芝生で試合を一人で観戦しながら、上島町での思い出を熱く語られる姿に感銘を受けたばかりでした。

本年もさまざまな方々とのお別れがありましたが、政治に携わるものとしてその意志を引き継ぎ、町政発展のために全力を尽くしてまいりたいと考えています。

本日は、令和4年第4回定例議会を開催いたしましたところ、全員の出席を招集いたしましたところ、全員の出席をいただき誠にありがとうございました。本年もさまざまな方々とのお別れがございましたが、政治に携わるものとしてその意志を引き継ぎ、町政発展のために全力を尽くしてまいりたいと考えています。

本年は、新型コロナウイルスの影響が小さくなつたことで、多くの全国大会が復活し、私も全国大会への参加や国への要望活動を積極的に行っておりましたが、9月定例議会後行政活動内容については時間の関係上、上島町ホームページ内の町長活動報告にて代えさせていただき、この場においては主な事項のみを報告いたします。

まず、公共工事の入札を妨害したことにより上島町職員から逮捕者が

出たことに対し、改めてお詫びを申し上げます。現時点では、警察の捜査中案事であり手元に資料もないため、私は町民の皆さまにご報告する方法がありません。

今後は上島町役場内でも、今回の事件の原因究明や再発防止策の検討等を行う調査委員会を設けるなど、町民の皆さまからの信頼回復に向けて全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、今後調査に関する予算の計上があつた場合には、議員の皆さまのご理解をいただきますようお願い申し上げます。

上島町の新型コロナウイルスの状況ですが、上島町においては5回目のオミクロン株に対応するワクチン接種を積極的に進めるなど、感染防止に努めています。

ただ発生届の基準が変更され、上島町単独の感染者数が公表されなくなりたことからの油断や、継続的に陽性者が発生している状況から、町民の皆さまは今後も正しくコロナに対応し、基本的な感染回避行動をとっています。

10月8日～10日の3日間、淡路サービスエリアにおいて「せとうちマルシェ2022」が開催されました。

これは本州四国連絡高速道路株式会社が、瀬戸内の魅力を発見・発信する「架け橋事業」の一環で、「せど

うち魅力発見キャンペーン」として実施しているものです。

現在、上島町は愛媛県を通じて本四高速と連携を深めておりますで、今回初めて出展の機会をいただきました。

10月24日には香川県土庄町において開催された「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会 四国ブロック会議」に参加し、上島町としての意見を発表しました。

この協議会は、瀬戸内地域およびその周辺地域を環境に配慮した、安全部門と、それに関わる各地方整備局、運輸局、本州四国連絡高速道路株式会社、また、瀬戸内地域のサイクリングルートを管理する自治体が出席しました。

会議においては、相互に連携・協力し、サイクリングルートのネットワーク化、サイクリングの推進エリア化とにより、本地域のブランド価値の向上を図り、持続的な地域振興を実現することを目的としたものです。

この度の、法改正では、法期限の10年間延長に加え、「都道府県による離島市町村への支援の努力義務」が新設されているのが特徴です。

上島町は、弓削高校生をはじめと連携してまいりますので皆さまのご理解を得ることで、より良い支援ができるよう努めています。

以上、私たちが想像する以上に瀬戸内には大きな動きが始まっています。もちろん、上島町はその中心となるポテンシャルを持つています。

今後も上島町の魅力を国内外に発信し、サイクリストやインバウンド、観光客による経済活動と発展につながるよう、国・県および関係機関と連携してまいりますので皆さまのご理

解などご協力ををお願い申し上げます。

この動きを後押しするように、11月13日に弓削高校が自転車甲子園最優秀賞を受賞しました。

この自転車甲子園は、高校生がサイクリングに関する正しい知識や技術を身に付けるとともに、地域の自然環境や文化への理解を深め、サイクリングを通じて、地域の魅力を発見・発信できる人材として活躍すること、また、地域課題に向き合う活動により、生徒・学校が社会的に影響の高い活動をしていることをお互いに認識していいます。

当日は、道路交通法や自転車のマナーに関するクイズ、自転車に関する実技試験、地域の活動や取組に関するスピーチによる予選が行われました。

上位4校による決勝では、課題クリア議論バトルが行われ、弓削高校生のデイベートは素晴らしい、その見事な逆転ホームランは感動的だったそうです。

また、弓削高校生は11月12日に開催された高校フードグランプリにおいて優勝をしており、離島の小規模校でありながら都会の大規模校と互角以上に渡り合った姿は、私たち町民に勇気と力そして感動を与えてくれました。

また、医師の確保等医療の充実に

する最近の若者達の活躍に、エールを送り続けたいと思います。

9月28日生名地域交流センターを皮切りに、11月30日の岩城北集会所まで、まちづくり懇談会を町内12ヶ所で開催させていただきました。

町民の皆さまからの、役場内だけでは気がつかない多くの指摘や要望に對し、その場での協議を行い、持ち帰つた課題は速やかに文書で順次回答させていただいているところです。

まちづくり懇談会は、上島町を「居心地の良い町」にするため多くのことを学ばせていただく機会であり、「ご参考加していただいた町民の皆さまやご意見をいただいた皆さまに感謝申し上げます。

11月18日には、「離島振興法」の一部を改正する法律が可決され、令和5年4月1日から10年間法期限が延長されました。

私も東京出張中でしたので、幸いにも参議院本会議に立ち合わせていただきました。この法律は議員立法であり、与野党全会一致の賛成でしたので、当日、公明党の党首をはじめ、各党関係者の皆さまに感謝をお伝えさせていただきました。

この度の、法改正では、法期限の10年間延長に加え、「都道府県による離島市町村への支援の努力義務」が新設されているのが特徴です。

この会議は、自転車による観光振興、住民の健康増進、交通混雑の緩和、環境負荷の低減等により公共交通利益を増進し、我が国の自転車文化の向上、普及促進および各地域の方創生推進を図ることが目的であり、国への自転車利用環境の整備促進に

関する要望事項などを取り纏めました。

中村愛媛県知事、湯崎広島県知事、池田香川県知事をはじめ、瀬戸内の8県と、それに関わる各地方整備局、運輸局、本州四国連絡高速道路株式会社、また、瀬戸内地域のサイクリングルートを管理する自治体が出席しました。

会議においては、相互に連携・協力し、サイクリングルートのネットワーク化、サイクリングの推進エリア化とにより、本地域のブランド価値の向上を図り、持続的な地域振興を実現することを目的としたものです。

10月30日、「サイクリングしまなみ2022」が開催され、国内から46都道府県、国外からは33カ国、合計約6400名の参加がありました。

サイクリングしまなみは、瀬戸内の魅力を詰め込んだ、魅力的かつバラエティ豊かなコースを持つた国際的なサイクリング大会を開催し、しまなみ

